

# 進路だより

平成31年3月15日発行  
第7号  
福島県立平支援学校 進路指導部

冬の寒さがやわらぎ、春風とともに生徒それぞれの進路が決まり、新しい生活に向けた準備が進められていることと思います。進路指導部では1年間、それぞれの進路のサポートとして、関連企業・事業所の情報収集や実践を踏まえた指導に取り組み学習をしてきました。今回の進路だよりでは、「高等部卒業生の進路先」「学部主事からのお祝いメッセージ」卒業式で述べられた「お礼の言葉」「進路指導主事より」を御紹介します。

## ～卒業生の進路状況～ 卒業生11名 ※複数利用を含む

| 進路先名称         | 人数 | 進路先名称               | 人数 |
|---------------|----|---------------------|----|
| 東日本国際大学       | 1  | 就労移行支援事業所           | 1  |
| 企業就労(予定)      | 1  | 生活介護事業所 しろやぎ3       | 1  |
| 生活介護事業所 アライブ  | 2  | 生活介護事業所 なないろくれよん小名浜 | 2  |
| 生活介護事業所 創造空間  | 1  | 生活介護事業所 ぽおけらハウス     | 1  |
| 生活介護事業所 光の家   | 3  | 生活介護事業所 わ・は・わ美里     | 1  |
| 生活介護事業所 エデンの家 | 4  | 生活介護事業所 結いの郷わくや     | 1  |

## ～各学部主事からのお祝いのメッセージ～



小学部八名の皆様、ご卒業おめでとうございます。六年間過ごした平支援学校は皆さんにとって「はじめて」をたくさん経験した場所でした。「はじめての先生」「はじめての給食」「はじめての友達」「はじめておうちの人から離れて過ごす」きっと、皆さんはドキドキしながら「はじめて」を経験してきたことと思います。それを見守るおうちの人も先生方も皆さん以上にドキドキしていたことと思いますが、皆さんの顔や体からは、学校が楽しい、友達っていいな、先生大好き、という気持ちがたくさんあふれ出ていました。



中学部は、心や体が大きく成長する大切な時期です。中学部での「はじめて」を先生や友達と経験して心と体を鍛えてください。でも不安になった時・・・大丈夫！小学部の先生方、そしておうちの人が、ず



晴れて卒業を迎える中学部三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。まだ、あどけなさが残る三年前の写真を見ると、この中学部の三年間で様々なことを経験し、心も体も大きくたくましく成長したことを感じます。自分でできることが増えた人、自分の思いを伝えられるようになった人、自分の得意なことを知り、苦手なことを受け入れて努力した人など、目の前の課題に精一杯取り組んだ結果が今の自分です。

さて、義務教育が終わり、これからは自分の意志で学ぶ高校生活です。新しい環境で、新しい教師や友達

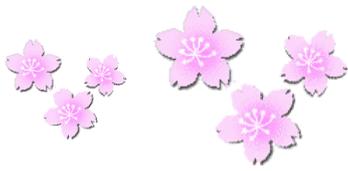


ご卒業おめでとうございます。皆さんは、12年間の学校生活で心も体も大きく成長しましたね。一步一步の歩みはゆっくりだったかもしれませんが、着実にその歩みを進めてこられたことに、ご家族の皆様のお喜びもひとしおかと思えます。

特に「産業現場等における実習」で企業や様々な事業所さんで過ごしたときの緊張感や卒業後の生活への期待と不安は、今でも思い出せるのではないのでしょうか。また、校外学習等でも外部の方との接し方や公共の場所でのマナーを意識して行動したり、余暇活動として友人達と楽しい時間を過ごしたりしたことなど、様々な社会体験をしてきました。そこで見つけた「できるといいこと」の実現に向けて、日々の学習でも頑張ってきました。活動を重ねる毎に、あどけない顔から大人びた顔つきになり、頼もしく見える皆さんがいました。私は人の成長する姿に改めて感動させられています。そんな皆さんに会えたことに心から「ありがとう」。

これからも自信をもって、たくさんの人達と様々なことを楽しんでください。そして、さらに成長した皆さんに会える日を楽しみにしています。

高等部主事 長田 佳代



## ～卒業生のお礼の言葉～



やわらかな日差しの中、教室の窓から見える山並みも優しい春の表情を浮かべるようになりました。本日はわたしたちのためにこのような心温まる卒業式を開いていただき、ありがとうございます。またご出席いただきました皆様には、心から御礼申し上げます。

わたしは幸せな障がい者でした。家族の温かい愛とたくさんの人々の支えに包まれ、車椅子に乗っていても不自由を思うことなく、たまに視線を感じることはあっても差別やいじめを受けることなく、幸せに過ごして行くことができました。

そんなわたしに新たな視点を与えてくれたのが、この平支援学校でした。小学部、中学部、高等部と自分に出来ることが増え、行動範囲が広がるに従い、いかに自分一人では出来ないことが多いか気付きを与えてくれました。

出来ない自分に気付くことは苦しいことです。でもどうすれば出来るようになるのか工夫を試みることは楽しいことです。そしてまた一步出来ることや行動範囲が広がっていくことは、この上ない喜びです。自分で行動を起こすことの中にこそ本当の幸せがあることをわたしは学びました。

ほんのささいな変化にも気づいてくれ、一緒になって喜んでくれる先生や仲間たちの中で、わたしたちは成長していくうれしさを実感することができました。わたしにとって障がいは、まだ友だちとはいえるものではありませんが、自分に気づきを与えてくれる相棒のような存在になりました。

生徒一人ひとりに向き合い、困難にぶつかったときも、出来るようになるまでじっと見守ってくださった先生、ありがとうございます。先生方のおかげで、わたしたちは最後まであきらめずやり遂げるたくましさをも身につけることができました。

苦しいときも楽しいときもいつも一緒だったクラスメイトや後輩のみんな、ありがとう。一緒に学んだ授業や行事そのどれもが、わたしたちにとってかけがえのない時間です。みんなと一緒にだったから、苦しみは半分に、楽しさは十倍に感じることができました。

そして、お父さん、お母さん、産まれてからずっとそばで支えてくれてありがとう。お父さん、お母さんの温かさがあったから、安心していろんなことにチャレンジしてこれました。ぎゅっとしがみつくように握り締めていた手のひらを少しずつ離していくけれど、わたしたちの力を信じて見守っていてください。

いよいよ新たな一步を踏み出すときがやってきました。通い慣れた小学部・中学部・平支援学校を離れることは、少し不安もありますが、わたしたちがわたしたちだからこそ気付けた気付きを、感じる事ができた思いを大切に、自分らしい生き方を実現していけるよう努力していきたいと思います。

木のぬくもりとあたたかな光あふれるこの学校が、これからもずっとたくさんの希望と笑顔にあふれ、輝き続けることをお祈りし、お礼の言葉といたします。



平成31年3月15日

福島県立平支援学校

卒業生代表 谷 康大

## ～ 進路指導主事より ～

今年度も「進路だより」や校内の掲示板への掲示等で、進路に関する学習の様子や進路先の情報等、情報の提供に努めてまいりました。学校では、小学部、中学部、高等部それぞれの段階に応じて、自分と社会とのかかわりについて理解したり、学ぶことや役割を果たすことへの意欲・態度を育てたりする学習を行っています。小学部段階から基本的な生活習慣を身につけたり、人間関係の基礎を形成したりすることが将来の進路選択・決定へと確実につながり、まさに「キャリア教育の充実」へとつながっていきます。

今後も児童生徒の皆さんの進路に関する悩みや要望、知りたいことなどがありましたら、学級担任や進路指導部教員まで  
各教員へお声かけ下さい。 進路指導主事 杉田 雄中